

丸山眞男研究プロジェクト活動報告

(二〇一三年四月―二〇一四年一二月)

安藤 信廣・黒沢 文貴

はじめに

本プロジェクトは、「新しい世界認識を開く基礎となる教養の重要性が注目されている今日、二〇世紀において様々な知的分野で巨大な足跡を残し、教養についても独自の認識を展開した丸山眞男の業績の再評価が強く求められる」(平成二四年度私立大学研究基盤形成支援事業構想調書)(以下「構想調書」)より)という認識を前提に、次のような目標を掲げて発足した。

- 1 丸山をはじめとする二〇世紀の知識人たちの教養形成過程及び教養観を解明する。
- 2 新渡戸稲造・南原繁・丸山らが知識人の国際的コミュニティ形成に果たした役割を明らかにし、二二世紀における新たな知的コミュニティ形成の方向性を探求する。
- 3 丸山文庫所蔵資料をデジタルアーカイブ化し、広く日本及び世界に向かって公開する。

このような研究目的のもとに、「二二世紀の教養と知のあり方を究明する上で重要な貢献をすること」(「構想調書」概要I「研究目的・意義」より)が、本プロジェクトの最終目標といえる。

本プロジェクトでは、右の1〜3の研究目標を追求するために、二つの研究テーマを設定した。

〈テーマ1〉二〇世紀知識人の教養と学問——丸山眞男文庫を素材として——(代表 安藤信廣)

〈テーマ2〉丸山眞男文庫所蔵資料の調査研究とデジタルアーカイブ構築(代表 黒沢文貴)

二つのテーマのうち、〈1〉は、右の研究目的の1・2に対応し、〈2〉は同じく3に対応している。もちろん、両者は深く関わりあっている。両テーマの追求は孤立して行われるのではなく、協働し補いあって進められることが前提とされている。

二〇一三・一四年度の年次計画は以下の通り。

・丸山が研究した主題に沿って、丸山以後の諸研究を探索する。

(二〇一三年度)

・初年度以来の業績をふまえ、中間シンポジウムを開き、成果をまとめるとともに、自己点検・評価を行う。(二〇一四年度、以上、〈テーマ1〉に対応)

・未公刊草稿資料類の調査をもとにデジタル化を開始する。(二〇一三年度)

・未公刊草稿資料類の調査をもとに翻刻を進め、デジタルアーカイブ・システムの構築に向けた準備を開始する。(二〇一四年度、以上、〈テーマ2〉に対応)

二〇一三・一四年度はシンポジウムの他、公開研究会、定例研究会その他多くの研究が行われた。以下、両テーマのそれぞれについて、二〇一三年四月から二〇一四年一二月までの活動状況を報告する。
〈1〉を安藤が、〈2〉を黒沢が執筆した。

〈1〉二〇世紀知識人の教養と学問

——丸山眞男文庫を素材として——

テーマ1は、「二〇世紀知識人の教養と学問——丸山眞男文庫を素材として——」である。二〇一三年四月から二〇一四年一二月までの活動状況は、次の通りである。

一 丸山の学問に関連する欧米及び中国の文献の研究

欧米文献研究については、アメリカ政治学に関する書物の研究を重点的に行った。その成果は、下記「三一 一九五〇年代の世界情勢、国際環境と政治思想の動向についての調査」にも反映されている。中国文献研究は、前近代から現代にいたるまで、幅広い書物を対象とした。前近代については丸山の儒教・朱子学の解釈について研究を進めた。丸山眞男の福沢論吉研究の視点を通して、福沢論吉の思想と中国近代知識人の思想とを比較し、中国思想の前近代から近代への継起における問題点を検討した。その過程で、現代中国の文化大革命時代および今日の改革開放時代の思想の深層に連続している思考様式を掴むことができた。また共産主義体制についての丸山の認識についても考察した。

二 長谷川如是閑と丸山の比較分析及び関連文献と資料の調査と整理

前年度にひきつづき、長谷川如是閑の発言に見られる教育・教養の伝統とはなにかを明らかにするために資料の調査及び整理を行った。長谷川が精力的に取り組んだ戦時下での議論及び戦後の議論をとりあげ、時代の背景や思潮との関係で考察した。

三 一九五〇年代の世界情勢、国際環境と政治思想の動向についての調査

前年度にひきつづき、丸山の日本政治思想史研究において東アジア

がどう位置付けられているか、丸山の議論を踏まえることにより、どのような東アジア論が構築できるか、東アジアからは丸山の議論がどう受け止められているか、を検討した。「丸山眞男のアメリカ観」というテーマにつき、アメリカ政治学との接点を模索した。丸山眞男とアメリカ文化の交錯に関して、近代化論をめぐる論争を中心に検討した。

四 近代日本におけるリベラル・アーツ、教養の系譜として新渡戸稲造と矢内原忠雄の理念・実態に関する研究

丸山の思想的系譜の理解、丸山以前の教養についての認識について調査・考察した。北海道大学新渡戸稲造文庫の調査結果を整理した。近代日本の教養の位置付けをめぐって、矢内原忠雄を中心に考察し、教養の現在の意味を検討した。その際丸山の観点を参照した。

② 丸山眞男文庫所蔵資料の調査研究とデジタルアーカイブ構築

テーマ2は、「丸山眞男文庫所蔵資料の調査研究とデジタルアーカイブ構築」である。二〇一三年四月から二〇二四年二月の活動状況は、次の通りである。

一 丸山文庫所蔵未公刊草稿資料類の調査

英文草稿類も含めた丸山文庫所蔵未公刊草稿資料類の調査を進め

た。同資料や丸山文庫所蔵図書等の調査の成果をもとに新たな本文校訂を行った『丸山眞男集』全一六巻・別巻の第四刷（岩波書店、二〇一四年三月より刊行開始）に反映した。

二 丸山文庫所蔵未公刊草稿資料類の翻刻公刊

「近代的ナショナリストとしての福沢先生」と「一九四七年度・一九四五年度「東洋政治思想史」講義原稿」を翻刻、本誌第九号に掲載した。テーマ2参加研究者が編集した『丸山眞男集別集』（全五巻、岩波書店）の刊行を二〇一四年二月より開始した。二〇一五年中に刊行予定の四・五巻に収録する「正統と異端」研究会については、研究会の録音記録を調査し、文字起こし作業を行った。

三 丸山文庫所蔵未公刊草稿資料類のデジタル化とデジタルアーカイブ構築

丸山文庫所蔵未公刊草稿資料類デジタルアーカイブに登録する画像を作成するため、ブックスキヤナを用いた同資料のデジタル化作業を進めた。対象となる資料約四〇〇〇点のうち、二〇一四年二月現在、約三分の一にあたる約一四〇〇点のデジタル化が終了した。

四 丸山文庫所蔵楽譜類の調査

丸山文庫所蔵の楽譜類、とくに丸山自身の書き込みがなされているものを中心とする調査と研究を進めた。

五 丸山文庫所蔵楽譜類のデジタル化

ブックスキヤナを用いて丸山文庫所蔵楽譜類の丸山による書き込みのあるページのデジタル化作業を行った。二〇一四年二月現在、丸山による書き込みのある楽譜四三〇冊のうち、半分の二一五冊（作曲家名がB、L、Wで始まるもの）のデジタル化が終了・公開となり、閲覧可能となった。

六 丸山文庫所蔵書簡類の調査と翻刻公刊

調査とリスト作成を進めた。その中で、プロジェクト外から元岩波書店編集者・竹田行之氏のご協力を仰ぎつつ、吉野源三郎が丸山に宛てた書簡三六点を翻刻、本誌第九号に掲載した。

七 丸山文庫バーチャル書庫の構築

丸山文庫所蔵図書が丸山家に所蔵されていた時の状態をwebページ上に再現する丸山文庫バーチャル書庫の構築を進めた。二〇一四年度中の公開を予定している。